

## マヒドンの日と人類のための教育

タニー・セーンラット

"真の成功は学問にあるのではなく、人類の利益のためにそれを応用することにある"

(ソングラーのマヒドン王子)

9月24日はタイでは重要な日です。「マヒドンの日」として知られるこの日は、1929年にソングラーのマヒドン王子が亡くなった日です。

マヒドン王子は、特に基礎科学、公衆衛生、医学研究の分野で、高等教育の進歩に影響を与えたことで知られています。特に、マヒドン王子の功績が認められた2つの注目に値する事業は、この国の医療の発展に向けたソフトとハードの両方の開発に大きな影響を与えました。

まず、マヒドン王子は私財を投じて、タイの優秀な学生に奨学金を与え、英国、欧州本土、米国で基礎科学や応用科学の分野を学ばせることにしました。この学生たちは、優秀な教職員の第一陣としてシャム王国に戻り、教育を通じて「恩返し」をすることになるのです。彼らはその後、医学分野の進歩に自らも貢献することになります。

次に、マヒドン王子は基礎科学を教えるための近代的な設備を手に入れ、実験室や教室を建設しました。また、**Sirirag School of Medicine**（現在、国内屈指の医学部であるマヒドン大学シリラート病院医学部）の設立委員会の委員長を務めました。

これらの意義深い行動は、医学と公衆衛生サービスの発展に長期的な影響を与え、マヒドン王子は"タイの医学と公衆衛生の父"という称号を与えられているほどです。

マヒドン王子が亡くなって21年後の1950年、マヒドン王子から奨学金をもらって留学したシリラート病院医学部の卒業生やその他王子から援助を受けた人たち、そして一般の人たちが集まり、王子を称える記念碑をシリラート病院に建立しました。その1年後、シリラート病院医学部は、9月24日を「マヒドンの日」と定め、王子を記念する重要な活動を行うことを発表した。最初は年1回の記念講演から始まり、1960年にはシリ

ラート病院における貧しい人々のための医療を目的とした寄付をした人々に感謝のトークンが贈られるようになりました。これらのトークンは白い布で作られた三角形の旗は、マヒドン王子の記念碑の写真と「In commemoration of Prince Mahidol Day - 24th September, Siriraj Hospital」という緑の文字のメッセージが描かれていました。今日では、これらの感謝の印にはさまざまな色があり、シリラート病院での近代的な医療機器や貧困層のための治療、医学部での人材育成への寄付を受け入れるシリラート財団があります。

マヒドン王子の人類のための教育への遺産は、シリラート病院医学部によってさらに制度化され、1992年1月1日に王子の生誕100周年を記念して、プリンス・マヒドン賞財団を設立することが提案されたのです。財団は、プリンス・マヒドン賞授賞式、プリンス・マヒドン賞会議、プリンス・マヒドン賞青年プログラム奨学金の運営を通じて、彼の遺志を受け継ぐ役割を担っています。

2つのプリンス・マヒドン賞は、毎年、世界中の人類のための医療および公衆衛生サービスの発展に模範的な貢献をした個人または機関に授与されます。それぞれ賞品は、メダル、賞状、10万USドルです。国の医療・保健機関、個人または非政府団体は、毎年5月31日までにプリンス・マヒドン賞財団の事務局長に候補者を推薦することができます。

昨年は、ハンガリーのカリコー・カタリン准教授（博士）と米国のドリュー・ワイスマン教授（医学博士）が mRNA 技術の COVID-19 ワクチン開発につながる共同研究を行い、カナダのピーター・カリス教授（博士）は、mRNA ワクチンがヒト細胞内に侵入できるようにする開発に使用される脂質ナノ粒子の先駆的研究により、プリンス・マヒドール賞医学部門の受賞に輝きました。タイ王国副首相兼保健相のアヌティン・チャーンウィーラクーン氏は、2022年1月にプリンス・マヒドン賞受賞者と会談し、世界中の何百何千という患者を支援するために献身的に働いている彼らを祝福し、賞賛しました。彼は、成果が人類にとって非常に重要な貢献であることを認め、タイが彼らの研究を支援する役割を果たせることを光栄に思うと述べました。

プリンス・マヒドン賞会議(PMAC)も同様に、毎年バンコクで開催されるイベントで、リーダーや専門家を招いて地球規模の課題を議論しています。2022年1月のPMACの

テーマは、"The World We Want: 持続可能で、より公平で、より健康的な社会に向けた行動"です。PMAC 2022 では、人口の変化、人口動態の変化、都市化、気候変動、土地利用の変化、トランスフォーマティブ・テクノロジーといった6つのメガトレンドに焦点を当てました。参加者は、これらの問題の関係性や、政策立案や集団行動を通じてどのように対処していくかを検討しました。彼らは、世界人口の増加が天然資源と人間の健康に影響を及ぼすと指摘しました。高齢化社会では、脳卒中やアルツハイマー病など、非感染症疾患の患者が増えており、より多くの研究者がこれらの病気に注目する必要があります。都市化とメガシティの増加は、気候変動と相まって、公害や関連する都市型疾病に多大な影響を及ぼしています。しかし、トランスフォーマティブ・テクノロジーの急速な発展は、医療処置の進歩や自然災害の予測など、こうした地球規模の課題の克服に貢献する可能性を秘めています。一日の終わりに参加者は、私たちが望む世界を創るために力を合わせると同時に、技術の進歩と命を救う革新が世界中に平等に行き渡るようにする必要があると繰り返した。

最後に、マヒドン王子が教育奨学金に資金を提供したように、プリンス・マヒドン財団は、プリンス・マヒドン賞青年プログラム奨学金を通じて、王子の遺志を引き継いでいます。昨年は、シリラート病院から3名、ラマティボディ病院から2名、計5名の有力国立病院医学部の学生に奨学金を授与し、彼らが奉仕活動を通じて社会に恩返しをすることを確信しています。

シリラート病院医学部のプーリン・アーリーサワーンキット氏も、その一人です。ラジオ・タイランドの番組「MFA Update」のインタビューでプーリン氏は、この奨学金は医学研究、公衆衛生システム、公衆衛生政策に関心のある若者に、どの国でも最前線の機関で1年間学ぶ機会を提供するものだと言明しました。プーリン氏は、世界的な専門家から学び、タイの学術機関と海外の学術機関とのつながりを強化する機会を得るために、この奨学金に応募したのです。タイでがん患者により効果的な治療を提供するため、がん治療の追求を目指しています。彼は、マヒドン王子が残した強力かつ永続的な遺産の一例であり、人類の利益のための学問と人類のための教育を追求した殿下の聖火を引き継いでいます。



タニー・セーンラット氏は、タイ外務省の情報局長兼スポークスパーソンです。また、プリンス・マヒドン賞財団の広報小委員会の委員長を務め、同財団と密接に連携している。情報局時代には、様々な活動を通じて、パブリック・ディプロマシーや若者に国際関係への関心を持たせることを重要視してきた。在ロサンゼルス総領事、在ベトナム大使を経て、現在は駐米国大使を務めている。